

磐城時報

石城郡石城町平町... 印刷所 磐城印刷所... 電話 二二二二

工費百萬圓を投じた 古河新坑着炭

一日六十噸の出炭で 十ヶ年は繼續する

石城郡好間村古河炭礦では工費午前十時から平町團體事務所で百餘萬圓を投じ昨年九月から着炭米價對策の協議會を開き一畝貯工した第二新坑の開鑿工事は藏の件、二玄米平均賣の件、三この程完成し採炭にかゝる事と米穀金融の件等を協議したが、組なつたが、一日五十噸の出炭で米穀を擔保として金融する量で採炭量二百萬噸と豫想され要項は大體左の如く決定した。農業倉庫証券又は確實なる營業倉庫の証券若しくは組合倉庫又は借入倉庫の保管米又は穀を擔保し、理事等保証の上貸付利率は個人は日歩一錢六厘五毛、組合では日歩二錢以内擔保品は時價の八割以内、復は二十三貫を以て玄米四斗と見做す擔保品には火災保險を附する事。

鑛業税増額 平稅務

署では來月末日までに納稅する六年度の試堀、採炭鑛區稅の調定中はつたが二十七日漸く決定した、試堀稅は百件、六千六百六十八萬九千坪に對し一萬四千八百九十四圓、採掘稅は九十八件四千三百九十一萬五千坪に對し二萬六千三百四十九圓を賦課することになり前年の試堀九十八件、六千四百九十二萬九千坪稅額一萬四千四百四十四圓五十六錢、採掘百件、四千三百五十六萬四坪、二萬六千三百三十八圓四十錢に比双方共多少の増額を見

感心な海軍兵は 鎌田の高田君

海兵團からの回答 平署で表彰方を依頼

昨報一昨年以來數回に亘つて金奇特な海軍は平町字鎌田町二十二圓宛平警察署人事相談所へ「四番地清一郎長男軍艦八雲乗込と送金して來た奇特な海軍兵の君で昨年一月横須賀海兵團に入身元について平警察署では表彰すべく横須賀海兵團人事部に紹介した處、二十日付身元につき回答があつたので、海兵團に産業組合石城支那では二十八日表彰狀を贈り表彰方を依頼した相馬郡原町南一番丁松の湯に二

金融規定

産業組合石城支那では二十八日表彰狀を贈り表彰方を依頼した相馬郡原町南一番丁松の湯に二

醬油組合總會

石城郡醬油組合總會は二十八日午後二時より住吉屋本店樓上に開催豫算決算等の報告を行ふ筈。

看護婦表彰

平町南町平看護婦會看護婦中シゲは平窪村傳染病患部を五十餘日働心に看護し全治せしめたので同村萩原村長から表彰された。

豪雨被害調査

平土木監督所では二十一日の豪雨被害調査の結果緊急復舊工事を必要とするものだけでも道路十三ヶ所工費一萬五千圓、河川十九ヶ所一萬圓、橋三ヶ所一萬五千圓、海岸一ヶ所千圓で工費總額四萬圓の多額に上り昨年の復舊工事が完成しない内から次々見做す擔保品には火災保險を附する事。

年賀郵便の臨時雇 職階級失業者を採用

職業紹介所から交渉

平町に於ける失業者は純労働者を採用するやう平郵便局に交渉者のみでなく最近では職階級中であつたが今回青森職業紹介所の失業者が非常に増加したので事務局では仙臺通信局長宛に同年賀郵便取扱ひの臨時雇員は四十名は採用される見込みがつけ可く町内の職階級失業者いたわけである。

湯本消防組員 増員の陳情

傾城方面の人家が増加

石城郡湯本町字傾城、辰ノ口、の他消防手の手を煩はす仕事が増え、天神の四部落には消防手増えたため九名では手不足を感じ九名であるが、最近同部落にすするに至つた、湯本町では協議が九名が増え来たため火防その結果同方面の消防手を二十名に増やす事。

鮫川堰水利事業 三十余年前回顧記

その頃鮫川電力株式會社は割増金に更に割増付といふ豪勢なもので勧誘等はせずとも飛ぶが如く取引された、當時の事を追憶し植田町の某氏は語つてゐる。會社に知人があつて、地方の事業だから株主となつて呉れと頼まれたので余り氣乗りもしなかつたが百株株持つことを約束した、所がその翌日會社から株券を持参して來た、その後日ならすして割増金が五圓程ついたので他所に譲つてやつた、第一回の拂込みもせずして五

馬目太逝平く

石城郡内郷村大字高坂近盛醸造元馬目太平氏は病氣中の處二十七日先山夫菅原常太郎(五二)同人長午後四時死去した、氏は幼に山進(二六)後山鈴木(三七)で家業に従事し今日の成功を築の三名は二十七日正午頃坑内で墜落した人、傍ら警備銀行探炭作業中、落盤の下敷となり頭取として地方實業界に活躍常太郎は即死進並にしなは頭取した事少なからず、享年八十部腰部に瀕死の重傷を負つた。

綴坑の落盤

石城郡内郷村大字高坂近盛醸造元馬目太平氏は病氣中の處二十七日先山夫菅原常太郎(五二)同人長午後四時死去した、氏は幼に山進(二六)後山鈴木(三七)で家業に従事し今日の成功を築の三名は二十七日正午頃坑内で墜落した人、傍ら警備銀行探炭作業中、落盤の下敷となり頭取として地方實業界に活躍常太郎は即死進並にしなは頭取した事少なからず、享年八十部腰部に瀕死の重傷を負つた。

軍事講演會

「國防と海軍」について

第五戰隊參謀 高木武雄氏
十一月廿九日(土曜日)午後三時より
海軍中佐 高木武雄氏
一、日時 十一月廿九日(土曜日)午後三時より
一、場所 平町四丁目マルトモビル階上
傍聽無料 多數御來聽歡迎

後援

磐城新聞社
磐城毎日新聞社
磐城時報社

時は實に百萬圓を突破する事であらう。斯くして星霜は過ぎ疎水組合の監理權は郡縣と同時に縣に移管される、毎期縣會座において喧しく論議され、地元選出各縣議員は異口同音縣當局を叱咤し、哀訴嘆願し、或は建議案として復活へと邁進して來たのであるが、茲に注目すべき点は企業會社の既得權の復活を期するに先づ既得權を取消すにあらざれば得ぬ事にして來た。企業會社の既得權も疎水の復活せざるを以上所期の目的たる發電計期は辛難とされ、疎水對電力の條件に置かれてあるといふ事である、縣が今日まで何等の所なきはこの企業會社と

疎水の關係がその一因をなしてゐると云はれ、縣會速記を徴すれば明かにそれを物言つてゐる、即ち古川傳一氏の言はるる、疎水の復活は企業會社に與へたる水利權を取消すにあらざれば望み得ぬことであるが、縣は企業會社の意をなくその存在すら明瞭でない、川電力會社の既得權を進んで取消すの勇氣ありや、また組合がさきに與へたる同權を取消す時は既得の水利權は消滅するかの疑問に對し縣代官當局は「その疑問に對する問題であるから目下慎重研究中にある」と具體的問題には觸れずにて逃れて來た。(未完)

▲秋季短歌會

平町詩 童に課外讀本として讀ませると廿七の兩日小高町秋市も大盛況に終りを告げ、愈々浪江町の秋市が廿九日から三日間晝夜ぶつ通して開市する秋市元祖の名を汚がす事ではならぬ原町や富岡が調停に入つた處、馬場團長が不徳を陳謝し遺憾の意を表したたし、ちなみに會費は三十錢(當日持參)で尙當口は特別短歌會は付き故若山牧水氏の門下で三春實科高女の天野多津雄氏が出席されるので一般の同好者を歓迎すること。

街頭のこのころ

名物カラッ風 「平名物何にもないがあるにこそかきかつ風」昔から歌にうたはれてゐる程よく吹く赤井おろしの冷たいからッ風が平町を連日おそつてゐる。水まき自動車は丹分置きにお役目大事とお尻から水をばきながら疾走してゐる昨日今日、平目貫の大通りははやくも歳末気分がたよひ初めた大賣出し大賑の赤地に白ぬきの旗幟が軒並にたてられびゆびゆ吹く風にあふられバタンバタンする音が百數十本一所に調子を合せてゐるのだからその音のやかましいこと一とほりでないが、この赤の旗幟だけはたしかに歳末気分をたつぷりと味はせる、のだけにその裏にめまぐるしい歳末狂躁期の出現を想ひしはつ羨しさと忙しさを思はせる。

相馬支局通信

七千部の郷土讀本 相馬郡教育會で企圖した郷土讀本の材料も本月中にまごまるので愈々来月早々編纂に着手し先づ七千部を印刷し五年以上の見

▲青團圓滿解決

相馬 郡中村町青年團では去る廿二日の優良分團表彰から騒ぎを起し一問題とされてゐたが各團顧問が調停に入つた處、馬場團長が不徳を陳謝し遺憾の意を表したたし、ちなみに會費は三十錢(當日持參)で尙當口は特別短歌會は付き故若山牧水氏の門下で三春實科高女の天野多津雄氏が出席されるので一般の同好者を歓迎すること。

▲前科者又懲役

相馬 郡中村町原釜生れ住所不定無職前科五犯小林榮太郎(二七)に係る窃盜詐欺横領は相馬區裁判所にて懲役一ヶ年を言渡さる。

▲元記者檢送

石城郡 平町生れ當時相馬郡大壺村季月刊新聞記者佐藤抱星草野野廣司(三四)は中村町地方で廣務料を詐欺し中村署で取調べの上檢送された。

▲浪江町の秋市

廿六 來月四日から三日間原町に開市

開店披露

永らく皆様の御最負を頂きました叶屋を廢めまして私此度左記の料理店を開きました
何卒倍舊の御引立と願ひます
十一月二十七日 平町田町元千鳥跡

君乃家

電話三八二番

平看護婦會

會長 清野キヨ
平町字南町(電話三〇七番)
看護婦派出の需めに應じます

民謡 小唄 踊 萬歳 行進曲

當二(二)日 三日間 午後五時開場 聚樂館
帝都各劇場にて好評を博せし 女流團朝日會來演
民謡界之 ピクチャーロード 和田如月師演出
日本一賣子 レコード會社 專屬
東北巡業歸途に付入場料破額の大勉強
驚く勿れ木戸一 等御一名 金二十錢
後援 警城時新報社 警城日新聞社

美味にして 強壯の効 著大 肉をふやし 血をふやし 肥やす 山崎合名會社



スプーン 山崎合名會社
平野町五丁目 山邊藥局
平野町五丁目 山邊藥局

醬油と味噌 山崎合名會社
鹽島縣平町
電話(營業部専用)一〇番 (一般用)二七番
派替東京一九七五番

債券、公債、兩替金融 多田井質店
平町大工町 (電話五九一番)

謹啓 曾祖父馬目太平儀永々病氣中の處療養不相叶本月二十七日午後四時死去致候に付此段御通知申上候
追而葬々の儀は來る十二月一日午後二時自宅出棺 當村清光院に於て佛式相營み申候
昭和五年十一月二十八日
石城郡内郷村
馬目太平 治
馬目豐 吉
馬目福 次
馬目德 長
石島正 一郎
會田金三 亮
高柳甲 三
內藤木 亮
代鈴

君はい、型の洋服を求められたね。誂だね? いや君コレは四丁目マルトモビル停車場で販賣中のソレ止札堂さ
ルビモトルマ目丁四 堂札正



度量衡計量器 吸入酸素器
關内藥局
電話四〇番